

水草研究会第6回全国集会報告

本研究会の第6回全国集会は、1984年8月4日の午後から5日に、長野県戸隠高原、中社の宿坊旅館「大西」を借り切って開催された。北は福島県から、南は岡山県、愛媛県にかけて、42名の参会者があり、盛会であった。

8月4日午後には、宿舎の茅ぶきの神殿大広間で研究発表会が開かれ、10題の研究発表がおこなわれた。

研究発表 (8月4日, 午後)

座長 角野康郎氏

1. 小宮定志 (日本歯科大) : 羽生市宝蔵寺沼におけるムジナモ増殖実験
2. 太田泰雄 (筑波大・農林学系) : 浮稲—その生態と形態
3. 大滝末男 (淑徳保育文化生活専) : アリノトウグサ科の水草について
4. 林 浩二 (茨城大・理) : ヒシの出葉速度の規則性と、それを利用した生活史の解析
5. 宮本水文 (京都市) : 深泥池水域植物群落の変遷と保護
座長 落合照雄氏
6. 生嶋 功 (千葉大・理) : ブラジル・パンタナル大湿原と水草
7. 角野康郎 (神戸大・教養) : 兵庫県播磨地方のオニバス群落
8. 渡辺義人・桜井善雄 (信州大・織) : 湖沼の物質循環における高等水生植物の役割
9. 立花吉茂 (大阪市大・附属植物園) : ビワ湖沿岸のヨシ
10. 桜井善雄・平松新一・呉壽完 (信州大・織) : 長野県戸隠高原種池の水生植物相と植生図

大会と並行して、会場の廊下には、大滝会長持参のアリノトウグサ科の水生植物の生品のほか、5日の見学に備えて、種池の水生植物も展示された。

研究発表会終了後、ひきつづき総会が開かれ、別記のような事項について報告と審議がおこなわれた。

午後6時半からは、同じ広間で、恒例の和気あふれる懇親夕食会が催され、9時過ぎまで会員の交流がつついた。

8月5日は天候に恵まれ、貸切バスで9時に旅館を出発、エクスカーションに向った。途中戸隠森林植物園の見学にわずかの時間を割いたのち、バスを降りて10分ほど山道を登り、10時20分種池に到着した。ここでは池畔から自然豊かな種池の水生植物群落を観察し、投入式採集器などで、2, 3の水生植物の採取をおこなった。種池の現状については桜井らの調査報告があったので省略する。種池には古くから雨の神が宿ると信じられており、毎年池畔で雨乞いの神事がおこなわれる。今回も採集を終る頃から俄雨が降り、霊験あらたかであった。

種池を出てさらに10分ほど山道を登り、11時30分頃古池に着く。古池は水力発電用の貯水池 (中部電力) として利用されており、南岸はコンクリート護岸になっているので、北の自然湖岸で観察と採集をおこなった。湖中ではフサモ、オヒルムシロ、車軸藻2種が採集されたほか、北岸の汀線から湿地帯にかけて、ミズドクサ、ミツガシワ、サワギキョウ、ヨシ、マコモ、ガマ (小型で一見コガマに似ていたが花粉粒は4個合成)、オニナルコスゲ、アゼスゲ、カンガレイ、ヌマハリイ、ミズバショ



ウ、リュウキンカ、ヒメシダ、チダケサシ、ヒオウギアヤメ、イヌコリヤナギ、など、多数の湿地植物がみられた。古池の池畔で、宿から届けられた昼食をとったのち山を下りて、再びバスで野尻湖に向った。

13時30分野尻湖着。約1時間観光船やボートの棧橋付近で水草の採集を試みたが、一草も採取できなかった。昔、車軸藻が沢山生育していた対岸で加崎先生が採集を試みられたがここでも全く収穫がなかった。この原因はソウギョ(草魚)の過密放流によるものである。野尻湖訪問は、水生植物についてはうところがなかったが、湖沼の水草帯管理の在り方について、貴重な実例を見ることができた。野尻湖のソウギョの放流の経緯については、別報を参照されたい(27頁)。

野尻湖を出発したのち、柏原の俳人小林一茶の旧宅に立寄り、信越線くろひめ駅で数人の参加者が別れ、さらにバスは戸隠の宿舎にひきかえし、15時30分頃解散した。

遠路で参加下さった会員の皆さんには、信州の高原の涼しさを十分味わって頂けたことと思うが、大会の準備や運営の面で行き届かないところがあったことを、お詫び申し上げる。それにも拘わらず、各位のご協力によって、第6回大会を有意義かつ無事故に終了することができたことを、深く感謝する次第である。(桜井記)

昭和59年度総会報告

○報告事項

1. 昭和58年10月1日、京都大学農学部より神戸大学教養部に、事務局が移転した。

2. 会員状況(8月25日現在)

会費完納	118名(51.8%)
59年度会費未納	91名(39.9%)
58.59年度会費未納	19名(8.3%)
228名	

(57年度以前よりの会費滞納者 21名一會報発送停止中)

特別会員 8名

3. 昭和58年度会計報告——会報No.15で報告済

4. 会報編集状況

20頁前後の会報が年4回、順調に発行されている。投稿数が増えれば内容が充実するだけでなく余裕もった

編集が行なえるので、より積極的な投稿をお願いしたい。

今年から、希望者には別刷を作成している。その費用の一部を、会で負担することになっていたが、会計事情をかんがみ、60年度からは、実費を全額負担していただくこととする。

以上の件が承認されました。

○審議事項

1. 会則変更

(1)会費滞納が2年以上に及ぶ場合は退会扱いとすることを会則に明記する。

(2)昭和60年度より、入会金として1,000円を徴収する。

以上2点が承認され、具体的な条文化は役員会に一任された。

2. 役員選任

60年度よりの新役員として、次のとおり承認された。

名誉会長 原田市太郎(横浜)

会長 大滝末男(東京)

副会長 浜島繁隆(名古屋), 桜井善雄(長野)

幹事 太田敬久(名古屋), 沖陽子(岡山)

角野康郎(神戸), 国井秀伸(松江)

田中修(神戸), 林浩二(東京)

別府敏夫(京都) <アイウ順>

会計監査 未定

3. 次年度の全国集会開催地

四国の高松と決定。

4. その他

信州戸隠の種池・古池、京都市深泥池(天然記念物)の保護について、水草研究会としてアピールすることが承認された。(角野記)